

35 愛知工業大学

Aichi Institute Of Technology

全種目完走+ 20位以内をめざして

AIT 学生フォーミュラ研究会

AIT Student Formula Study Group

<http://aitech.ac.jp/~fujimura/formula/indexSAE2.html>



Presentation プレゼンテーション

マシン名: **AIT-014**

私たちは、初のエンデュランス完走を果たした昨年度マシンをベースに、マシンの改良を行いました。

基本構造の大幅な変更はしないものの、改良点として、まず、マシンの軽量化を行いました。昨年度マシンは全審査完走を果たすべく安全性を重視したマシンとしたため、重量が非常に大きくなってしまった問題が発生しました。そこで、目標を昨年度比20kg以上の削減とし、マウント93個全ての形状の見直しや、カウル形状及び材質の変更等によりトータルで22kgの軽量化に成功しました。また、パワートレイン系の改良として、CVTのセカンダリプーリーシャフトの取り付け方法の見直し及び、CVTのチューニングによる加速性能の向上も行いました。

また、マシンの完成後は学外にて走行テストを充分に行い、長距離の走行に耐えることができるのか、燃費はどうか、オイルや燃料などの漏れは発生しないか等の確認を行いました。さらに、昨年度コースアウトしてしまい結果の残らなかったスキッドパッドの練習を重点的に行い、今年度は完走できるようドライバーの練習にも励みました。

次年度ではマシンのセッティングを行う時間を十分に設けるために、マシンの完成を年度内に行い、走行に適したマシンの製作を行っていきます。

Participation report 参戦レポート

私たちのチームは今年度で5回目の大会参戦となります。昨年度は初の「エンデュランス完走」を達成することができました。今年度は、全審査完走は当然ながら、順位「20位以内」に入ることができるよう、1年間活動をしてきました。

今年はマシンを完成させた後、レギュレーションやマシン不備の改善を徹底的に行い、万全の準備を行い大会に臨みました。当日は、安全性の面で指摘を受けましたが、すぐに修正を行い、車検を通過することができました。

動的審査では、エンデュランスは荒天のために走行することができず悔しい思いをしましたが、昨年度コースアウトして完走できなかったスキッドパッドは「完走」することができました。またオートクロスでは昨年度のベストタイムを2秒縮めることができました。

静的審査では、コスト審査で「7位」を得ることができました。私たちのチーム歴代でいちばん良い結果であり、十分な準備を行ったからこそ出た結果だと思えます。しかし、プレゼンテーション審査では大会直前になって慌てて資料を作ったので満足のいくものができず昨年度より順位を落とす結果となってしまいました。コスト審査で上位を取れたことは大きな前進だと思えます。

来年度は今年度のマシンの改良とともに、マシン完成を年度内に行い、静的審査に力を注げるよう努力して参ります。



今回の総合結果・部門賞

●総合 54位

Profile チーム紹介・今までの活動

我々は、今年度は20位以内をめざして活動してきました。しかし、私たちの努力が足りず、目標の順位に届かないばかりか、大きく順位を落とす結果となってしまいました。この悔しさをバネに、来年度は上位をめざして参ります。

Team-member チームメンバー

芹澤 元希 (CP)

藤村 俊夫 (FA)、水野 貴大、森川 雄基、
二上 泰輔、山田 大輔、上村 大樹、大嶋 悠嵩、
稗田 悠太、大野 雄飛、富田 修平、長屋 圭、
鈴木 雅也、山崎 壮登、谷川 和克、工藤 健太、
瀧 直史、青山 大輝、栗田 直記、野原 遼、
南 亮輔、中村 真也、井出 知秀

Sponsors スポンサーリスト

ヤマハ発動機、エフティテクノ、エイアイテック、NKN、
ソリッドワークス、NTN、THK、ダウ化工、F.C.C.、
ウエストレーシングカーズ、アクセル、UACJ、
O.Zジャパン、OSG、東洋高周波工業、サード、
enable、渡辺工業、岡島パイプ製作所、協和工業、
前田シェルサービス、日信工業、ナカダクラフト、
鍋屋バイテック、住友ゴム工業、住友電装、ミツヨ、
丸弘鋼材、笹野商店、名古屋ダイハツ、梅野産業、
RAYS、榮進堂書店、三井機工、エイティーエス、
タマチ工業、愛知工業大学 学生チャレンジプロジェクト

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/35.html>